

国際公法

(International Law)

1 学期 木曜 7・8 時限
授業時間：75 分×20 回
単位数：2 単位
履修年次：3 年次

担当教員：鈴木淳一
研究室：

授業の到達目標：

本授業は、以下の二点を到達目標とする。

- (1) 国際法に関する体系的理解を得ること。
- (2) 国際法についての教科書・研究書・論文を収集・読解し、国際法に関する小論文を作成する能力を修得すること。

授業概要：

本授業では、教員による講義と学生による討論を通じて、国際法に関する基礎概念の整理と、同法の体系的理解を目指す。事例研究もあわせて行う。

評価方法：

学期末レポート、小テスト、出席・質疑応答状況により判定する。

学期末レポートの成績：50%

小テストの成績：30%

各講義における質問や議論の参加による貢献度：20%

教科書：

杉原高嶺ほか著『現代国際法講義 第5版』(有斐閣, 2012 年(予定))

『国際条約集』(有斐閣, 2012 年)

小寺彰ほか編『国際法判例百選 第2版』(有斐閣, 2011 年)

参考書：

浅田正彦編『国際法』(東信堂, 2011 年)

大沼保昭『国際法 新訂版』(東信堂, 2008 年)

奥脇直也・小寺彰『国際法キーワード[第2版]』(有斐閣, 2006 年)

小寺彰ほか編『講義国際法』(有斐閣, 2004 年)

小寺彰『パラダイム国際法』(有斐閣, 2004 年)

酒井正彦編著『国際法』(有斐閣, 2011 年)

杉原高嶺『基本国際法』(有斐閣 2011 年)

杉原高嶺『国際法学講義』(有斐閣, 2008 年)

中谷和弘ほか『国際法〈第2版〉』(有斐閣, 2011 年)

松井芳郎ほか『国際法 (第5版)』(有斐閣, 2007 年)

山本草二『国際法 (新版)』(有斐閣, 1994 年)

柳原正治ほか『プラクティス国際法講義』(信山社, 2010 年)

横田洋三編『国際社会と法』(有斐閣, 2010 年)

田畑茂二郎ほか編『判例国際法[第 2 版]』(東信堂, 2006 年)

杉原高嶺ほか編『国際法基本判例 50』(三省堂, 2010 年)

大沼保昭編著『資料で読み解く国際法 第 2 版 上・下』(東信堂, 2002 年)

西谷元編著『国際法資料集』(日本評論社, 2010 年)

波多野里望ほか編著『国際司法裁判所 判決と意見 第一巻』(国際書院, 1999 年)

波多野里望ほか編著『国際司法裁判所 判決と意見 第二巻』(国際書院, 1996 年)

波多野里望ほか編著『国際司法裁判所 判決と意見 第三巻』(国際書院, 2007 年)

授業計画：

限られた授業時間内で広範な国際法全般を扱うことは困難であるため、本授業では国際法の学修上不可欠である主要な問題に絞って検討する。また、必ずしもシラバス通りではなく、学生と話し合いながら授業を進めたい。

本授業では、①教員による講義と、②学生による発表・ディスカッションというオーソドックスな教育方法を併用することにより、国際法に関する体系的知識の修得を行う(ただし、実務上、具体的事例に対する法的思考力が要求される場面があるので、可能な限り、事例研究もあわせて実施する)。

第 1 回 コースガイダンス

第 2 回 国際法の特徴

第 3 回 国際法と国内法

第 4 回 国際法の法源

第 5 回 紛争の平和的解決

第 6 回 条約法

第 7 回 国家責任

第 8 回 国家の基本権

第 9 回 国家管轄権(国際犯罪を含む)

第10回 領域

第11回 外交関係・領事関係

第12回 主権免除

第13回 国家承認・政府承認

第14回 国家承継・政府承継

第15回 海洋法①

第16回 海洋法②

第17回 国際公域(南極・宇宙空間を含む)

第18回 武力紛争法・人道法

第19回 武力行使の規制と国際安全保障

第20回 まとめ